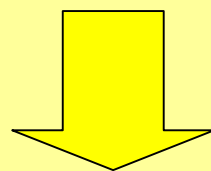


災害教訓の継承に関する専門調査会(仮称)の設置について

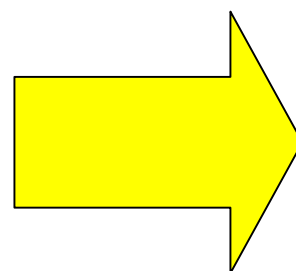
災害教訓の継承に関する専門調査会(仮称)の設置

日本は自然災害が発生しやすい国土。

自然災害は、人間の営みに比べると、遥かに長い時間的サイクルで発生。
規模の大きな災害ほどそれが発生した場合に、ほとんどの国民はそれを初めて経験

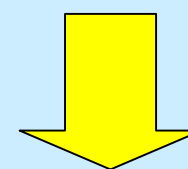


歴史上の被災の経験と国民的な知恵を継承し、それらを共有すべく努力することが、
災害対策を進める上での基礎。



(調査事項)

- ・ 地震、噴火、津波、水害その他の災害種類別の取りまとめ事項
- ・ 被災の状況、政府の対応、国民生活への影響、特別な貢献をした人物とその内容など)



災害教訓を計画的・体系的に整理

(今後の予定)

- ・ 概ね 10 年程度にわたって、1 年に 10 件程度の整理を行い、100 件程度の教訓テキストを整備
義務教育から生涯学習に至るまであらゆる機会を捉えて、テキストを活用し、教訓の継承に資する。

災害教訓の継承に関する専門調査会（仮称）

参考資料

第 1 期（平成 15～16 年度）で取りまとめる災害の具体的なイメージ

相模トラフ沿いの巨大地震

発生年	災害名	概要
1703 元禄 16 年	元禄地震	M7.9～8.2。小田原の城下で死者 800 名以上。津波による死者は房総半島、外房海岸で 6700 名。家屋の倒壊と火災で江戸の死者数は 3 万名以上。
1923 大正 12 年	関東大地震	M7.9。相模湾北西部が震源。正午直前(11:58)の発災であったため各所で火災が発生し、強風(風速 15m)により被害が拡大。死者 14 万名(旧陸軍被服廠跡での焼死者・窒息死者 3 万 2 千名)。

首都直下型地震

発生年	災害名	概要
1855 安政 2 年	安政江戸地震	M6.9。江戸湾荒川河口付近が震源。深川、本所、下谷、浅草等で激しい被害。武家を除いた死者は 3895 名(武家を含めると約 7 千名)、潰家 14346 戸。翌日から町会所で炊き出しを開始。暴利取締令を発し、強制的に発災前の値段で日用品を売らせた。
1894 明治 27 年	東京地震	M7.0。東京都東部、神奈川県東部、埼玉県南東部などで震度 5～6 の揺れ。東京湾沿岸での被害が大きく、死者 31 名。各地で土地の亀裂や液状化が発生。

南海トラフ沿いの巨大地震

発生年	災害名	概要
1707 宝永 4 年	宝永地震	M8.4。全国で死者 2 万名、潰家 6 万戸、流失家 2 万戸以上。揺れの被害は東海道、伊勢湾、紀伊半島で、津波の被害は紀伊半島から九州までの太平洋岸(特に土佐)で大きい。東海・南海地震が同時に発生した可能性。
1854 嘉永 7 年	安政東海地震	M8.4。被害は関東から近畿に及び、特に沼津から伊勢湾にかけての海岸で甚大な被害。津波は房総から土佐までに来襲。死者 2～3 千名、潰・焼失 3 万戸。
1854 嘉永 7 年	安政南海地震	M8.4。東海地震の 32 時間後に発災。被害は中部から九州に及び。津波が大きく、波高は串本で 15m、久礼 16m、種崎 11m など。紀州沿岸熊野以西の大半が流出。高知市付近では地盤が約 1m 沈下。
1944 昭和 19 年	東南海地震	M7.9。静岡・愛知・三重などで死者不明 1223 名、住宅全壊 17599 戸、半壊 36520 戸、流出 3129 戸。津波が各地に来襲し、波高は熊野灘沿岸で 6～8m、遠州灘沿岸で 1～2m。

1946 昭和21年	南海地震	M8.0。潮岬、高知市、津市などで震度5。被害は中部地方から九州地方に及び、死者1443名、住宅全壊11591戸、半壊23487戸、流出1451戸。津波は静岡県から九州に至る海岸に来襲し、徳島や高知の沿岸では、波高が4～6mに達した。また、高知市付近では最大1m程度沈降し、低地に海水が流入する被害が生じた。
---------------	------	--

その他の地震、噴火及び津波

発生年	災害名	概要
1683 天和3年 1723 享保8年	天和地震と五十里洪水	M6.8。戸坂山（現在の栃木県栗山村の葛老山）の南東尾根斜面が崩壊して男鹿川と湯西川をせき止め、湛水量6,400万m ³ の旧五十里湖を形成。 40年後の享保8年にこの天然ダムが豪雨により決壊、鬼怒川流域を鉄砲水となり襲い、約1,000名の死者を出した。
1707 宝永4年	富士山宝永噴火	須走村75戸が倒壊。降灰の影響が大きく2年後の宝永6年でも山麓の御殿場付近の7カ村の住人のうち、幕府の調査によれば、55%が飢餓状態。
1783 天明3年	天明の浅間焼け (浅間山天明噴火)	爆発による溶岩が秒速100mの火砕流となり鎌原村（現在の群馬県嬬恋村鎌原）を埋め尽くし、村人570名のうち477名が死亡。吾妻川に流れ込んだ火砕流が泥流となり下流で千数百名が死亡。
1792 寛政4年	島原大変肥後迷惑 (雲仙普賢岳寛政4年噴火)	前年から活動していた雲仙岳の火山噴火活動により、2回の強い地震とともに島原と雲仙岳の間の眉山の東半分が崩壊し、対岸の肥後領に津波が来襲。死者約1万5千名（島原で死者約1万名、肥後約5千名）。
1847 弘化4年	善光寺地震	M7.4。死者総数1万名以上（善光寺領8千人のうち3千人が死亡）。善光寺の諸堂は倒壊、門前町の大半が焼失。岩倉山の崩落により犀川がせき止められてできた湖が20日後に決壊して下流域を直撃したが、多くの住民は予め避難していたため洪水による死者は少数。
1896 明治29年	明治三陸地震津波	M8.5。地振動は震度2～3程度であったが、地震後30～40分後から波高30mを越す津波が来襲し、死者約2万2千名（花火見物客6～7百名を含む）。
1933 昭和8年	昭和三陸地震津波	M8.1。地振動は震度5。崖崩れや壁の亀裂などの被害も生じたが、家屋、船舶を含め被害のほとんどは地震後30～40分後から来襲した波高20mを越す津波によるもの。死者約3千名。
1986 昭和61年	伊豆大島噴火	全島民約1万人が一時島外に避難
2000 平成12年	三宅島噴火	20世紀に3回の噴火が発生しているが、平成12年の時はそれらよりもはるかに大規模。平成12年6月26日から地震が多発し、7月8日以降山頂で噴火が繰り返し発生。長期間に渡って多量の火山ガスを噴出。9月2日に村長から避難指示を発出し、4日に全島民約4千人の避難が完了（現在も継続中）

水害その他の災害

発生年	災害名	概要
1657 明暦3年	明暦の江戸大火	1月18日、本郷丸山の本妙寺から出火。おりからの北西の強風で、深川、牛島、新田まで広がったのに始まり、翌19日にも小石川鷹匠町で出火。火は江戸城本丸・二丸・三丸に及び、天守閣ほかを炎上させた。両日の火災で500以上の町と大名屋敷が焼け死者数も10万人以上に達した。
1742 寛保2年	寛保2年の大水害	利根川上流の豪雨等の影響で発生。現在の埼玉県春日部市周辺で溺死者9千名以上、江戸下谷・浅草・本所で溺死者4千名。幕府が橋の復旧、焼飯の配布、遭難者救助、治安維持等の面で迅速な対応。民間有志が救助活動を実施。
1946 昭和22年	カスリン台風	勢力は弱いですが、前線性豪雨と重なった大雨により東日本各地は大水害に見舞われた。利根川・荒川両河川両堤防が破堤し、関東平野は一面の泥海と化した。
1952 昭和28年	和歌山県有田川流域土砂災害	死者111名、行方不明者85名。この災害で花園村で発生した大規模崩壊により天然ダムが形成され、2ヶ月後の9月25日台風13号により決壊した。
1959 昭和34年	伊勢湾台風	風速30m以上の暴風圏が半径300キロを超える大型台風。死者・行方不明者5,098人。被害総額5千億円
1976 昭和51年	酒田の大火	昭和51年10月29日夕刻、酒田市中心部の商店街で発生した火災し、おりからの強風にあおられ、22.5haを焼き尽くした。